

法權撤廢及行政權移讓ニ關スル滿洲國財政計畫概要

三四二二 企 畫 處

一、法權撤廢及行政權移讓ノ滿洲國財政ニ對スル影響

1、法權撤廢及行政權移讓ニ件ヒ滿洲國ノ負擔増加トナルモノ撤廢
移讓直後ニ於テ推算二千二百五十萬圓ニシテ内譯左ノ如シ

關東局關係 (最近豫算ニ據ル) 收支差引不足額 三九二七千圓

大使館關係 (全) 前 () 三八一二

朝鮮總督府關係 (全) 前 () 一九二四

滿鐵關係 (全) 前 () 三一九二

引繼迄ノ右自然増加見込額 三九五

小 計 一五二五〇

引繼後ノ人件費増加 四二五〇

日本人教育費補助金

(日本側ヨリ受クベキモノヲ差引タル額)

合計	1,000
合計	2,050
国防分擔金ノ増加	2,000
總計	2,500

- 2、次ニ法權撤廢及行政權移讓ニ伴ヒ新ニ歲入増加スルモノ康徳五年度ニ於テ概算五百三十萬圓ニシテ爾後若干ノ増加ヲ見込ミ得地方稅ニ付テハ附屬地内ニ於テハ公費廢止セラルル爲差引增收ハ期待シ得ズ附屬地外ニ於テモ概ネ地方稅課稅ヲ默認サレ居ル現狀ニシテ殊ニ哈爾濱市ノ如キハ寧口新制度ノ結果減收ヲ來スガ如キ實情ナルヲ以テ殆ド增收ヲ見込ムコト困難ナリ
- 3、從ヒテ法權撤廢及行政權移讓ニ關シ財政上特ニ措置ヲ講ズベキ金額ハ前述歲入歲出ノ差引不足額一千七百二十萬圓ナリ

三、滿洲國財政計畫上ノ根本方針

而シテ康徳四年度以降ニ對スル一般財政ノ計畫ヲ立ツルニ當リテハ滿洲國金融經濟ノ現狀ニ鑑ミ財政ノ健全性ヲ維持スルト共ニ或程度ノ新規事業ハ新國家發展上當然之ヲ遂行スルヲ前提トセザルベカラズ且ツ法權撤廢及行政權移讓後在留日本人ノ進出ヲ阻害セザルガ爲其ノ負擔激増ハ之ヲ避クルヲ念トセザルベカラズ加之國民現在負擔ハ決シテ輕シトセズ將來負擔ニ餘裕ヲ生ズルトキハ國家ノ健全ナル發達ヲ計ル爲之ガ輕減ヲ考慮スルノ要アリ即チ今後五箇年ノ財政計畫ハ大体左ノ原則ニ依リ之ヲ立ツ

- 1、借入金ハ今後三箇年ヲ限リ年一千萬圓ノ範圍ニ止ム
- 2、舊外債整理基金ノ積立ハ從前通り之ヲ續行ス(關稅、鹽稅擔保合計約一千萬圓)
- 3、建設公債ノ償還ハ豫定通り實行ス(康徳四年度四百萬圓、同五年度八百萬圓、同六年度一千萬圓)
- 4、法權撤廢及行政權移讓ニ伴フ負擔増加ハ之ニ伴ヒ負擔輕減トナ

ル日本側ヨリ相當ノ協力援助ヲ得テ之ヲ處理ス
今後ノ新規事業ノ爲メ毎年一般増収ノ四〇〇ヨリ三百萬圓乃至六百萬
圓程度ノ財源ヲ豫定ス

三、法權撤廢及行政權移讓ニ伴フ負擔増加ニ對スル財政上ノ調整

- 1、敍上ノ方針ニ基キ財政計畫ヲ立ツルトキ法權撤廢及行政權移讓ニ直接關係無キ一般増収ノ内前記撤廢移讓ニ關シ措置スベキ増加負擔一千七百二十萬圓ノ財源ニ充當シ得ベキ金額ハ康徳五年度ニ於テ最大限度五百七拾萬圓程度ニシテ此ノ外右ノ財源ニ充ツル爲滿洲國ニ於テ捻出シ得ベキ金額ハ一般既定經費ノ整理節約ニ依ル最大限度五百五拾萬圓程度ニシテ總計一千百二十拾萬圓ナリ
- 2、即チ前號ノ處置ヲ講ズルモ尙生ズル六百萬圓ノ財源不足ニ對シテハ日本側ノ援助協力ニ依ツノ外無ク其ノ爲メ法權撤廢及行政權移讓ニ伴フ歲計膨脹ニ基ク國防費分擔金ノ増加ヲ諒節スルト共ニ滿鐵ヨリハ差當リ其ノ免ルベキ經費負擔ノ半額ヲ自途トシ年四百萬圓ヲ納入スルヲ期待ス
- 3、之ヲ要スルニ左ノ如シ

法權撤廢及行政權移讓ニ伴フ負擔増加額 二二、五〇〇千圓
右ニ伴ヒ新ニ増加スベキ歲入額 五三〇〇

差引撤廢及移讓ノ爲頭此上措置ヲ要スル額

一七、二〇〇

右ニ對スル措置

一 般増收充當額

五、七〇〇千圓

既定經營整理節約額

五、五〇〇

漏納入金

五、〇〇〇

廠防費分攤金増加節約額

二、〇〇〇

計

一七、二〇〇